

病害虫発生予察警報第1号

佐賀県

作物名：水稲

病害虫名：穂いもち

1) 警報の内容

発生地域：県内全域

発生量：平年及び前年より多い

2) 警報発令の根拠

- (1) 8月18日～19日に実施した普通期水稲の巡回調査（48圃場）では、葉いもちの発生株率36.5%（平年5.6%、前年8.6%）であり、平年及び前年より多い（図1、表1、写真1～2）。
- (2) 葉いもちの発生は、例年、8月上旬に最も多くなり、夏季の高温により減少するが、本年は長雨・日照不足により著しく増加している（図1）。
- (3) 穂いもちの伝染源となる上位葉に病斑が確認されている。また、病斑上に多数の胞子を形成する進展型の病斑も確認されている（表1）。
- (4) 稲の体質は軟弱となっており、罹病しやすい状態となっている。
- (5) 今後も長雨・日照不足が続くと予想されているため、穂いもちの発生に好適な条件となっている。

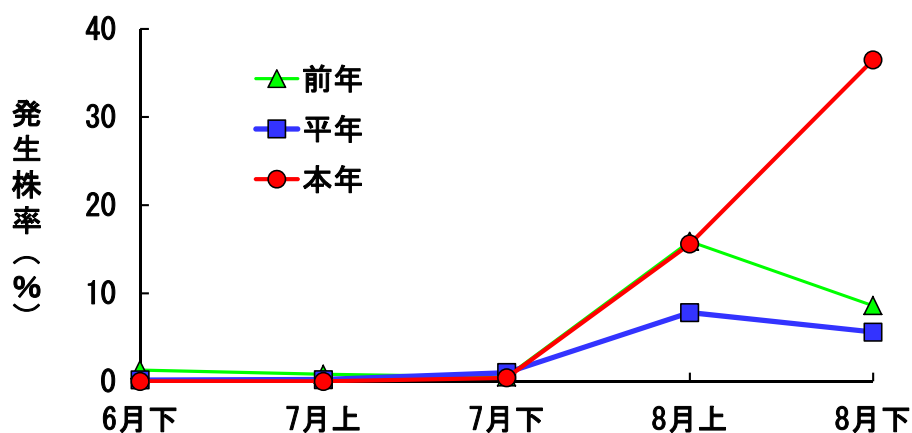


図1 普通期植え水稲におけるいもち病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場によって葉いもちの発生状況が異なるため、必ず圃場を見回って、葉いもちの発生状況を確認する。
- (2) 葉いもちの進展型病斑がみられる圃場では、早急に防除を行う。
- (3) 葉いもちの発生が見られる圃場や地域では、穂ばらみ期の防除を徹底する。発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも防除を行う。
- (4) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連続使用は避ける。

(5) 薬剤散布の際には、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、収穫前使用日数及び使用回数等の農薬使用基準を遵守する。

(6) 窒素過多はいもち病の発生を助長するため、適切な施肥管理を行う。

表1 普通期水稻葉いもち発生状況
(2014年8月18~19日調査)

調査地点	発生株率	発病程度	発生葉位	病斑型
	%			
佐賀市	40	少	3L	停止型
〃	16	少	3L	停止型
〃	8	少	3L	停止型
〃	4	少	3L	停止型
多久市	88	少	2L	進展型
〃	64	少	2L	進展型
〃	80	少	2L	停止型
〃	100	少	1L	停止型
小城市	24	少	2L	進展型
〃	36	少	2L	進展型
〃	20	少	2L	進展型
〃	80	少	2L	進展型
鳥栖市	20	少	3L	停止型
〃	8	少	3L	停止型
〃	4	少	2L	停止型
〃	0			
神崎市	28	少	2L	停止型
〃	40	少	2L	停止型
〃	92	中	2L	進展型
〃	80	少	2L	停止型
吉野ヶ里町	24	少	3L	停止型
〃	8	少	2L	停止型
〃	16	少	3L	停止型
〃	36	少	2L	進展型
唐津市	12	少	2L	進展型
〃	0			
〃	8	少	2L	停止型
〃	0			
伊万里市	4	少	3L	停止型
〃	4	少	3L	停止型
〃	8	少	3L	停止型
〃	24	少	2L	停止型
武雄市	100	中	2L	停止型
〃	100	中	2L	進展型
〃	100	中	2L	進展型
〃	100	中	2L	停止型
白石町	0			
〃	12	少	3L	停止型
〃	0			
〃	4	少	3L	停止型
鹿島市	16	少	3L	停止型
〃	0			
〃	8	少	3L	停止型
〃	4	少	3L	停止型
嬉野市	48	少	3L	停止型
〃	100	少	2L	停止型
〃	88	少	1~2L	停止型
〃	96	中	2L	進展型
発生株率 (%)	36.5			
平年発生株率 (%)	5.6	平年に比べて多い		
前年発生株率 (%)	8.6	前年に比べて多い		

発病程度は、少：病斑がわずか(病斑面積率約0.5%)
中：かなりの病斑(病斑面積率約2%)
発生葉位は最上位葉を1Lとし、値が増えるにしたがい下位になることを示す。



写真1 圃場で発生したずり込み症状
(平成26年8月17日撮影)



写真2 上位葉にみられた進展型病斑
(平成26年8月18日撮影)